

第8回横浜トリエンナーレについて

我が国を代表する現代アートの国際展、「第8回横浜トリエンナーレ」を開催します。

ファミリー層や将来を担う子どもたちが気軽にアートに触れる機会を提供し、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与するとともに、都心臨海部のまちなか会場などを回遊しながら楽しめる展覧会とすることで、街のにぎわいを創出します。

1 開催概要

(1) 会 期 令和6年3月15日(金)～令和6年6月9日(日)

[開場日数] 78日間

(2) 会 場 横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO



(3) アーティスト・ディレクター

リウ・ディン (劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー (盧迎華)

(4) タイトル ^{やそう}野草：いま、ここで生きてる / Wild Grass: Our Lives

2 今回展の特徴

(1) 展覧会の特徴

多様な背景を持つ作家や、これまで日本で紹介される機会の少なかった国の作家が67組(予定)参加します。このうち30組(予定)は日本で初めて紹介される作家であり、最新の現代アートに触れる絶好の機会となります。

(2) にぎわいを創り出す国際展

横浜駅から元町・中華街駅、山手地区の幅広いエリアにおいて、創造界隈拠点や民間企業等と連携した多彩なプログラムを展開することで、現代アートと春の横浜の魅力を同時に楽しんでいただけます。

<主な取組>

- ・無料で鑑賞できる作品のまちなか展示による話題作り
- ・チケット提示による割引など、商業施設等との連携による回遊性の向上
- ・応援プログラムの募集・広報連携による市内全域での機運醸成 など

(3) 子育て世代を中心に誰もが現代アートを楽しめる取組

子育て世代がゆとりを実感しながら現代アートを楽しめる取組の強化や、初心者をはじめ誰もが気軽にアートに親しめる機会の創出に取り組みます。

<主な取組>

- ・ 高校生の鑑賞券の無料化
- ・ 親子でおしゃべりしながら鑑賞できたり、妊婦や子ども連れの方に優先して入場いただける「こどもファスト・トラック」実施日の設定
- ・ 横浜トリエンナーレの PR 動画の放映やワークショップを実施する「わくわくアートひろば（仮称）」の開催
- ・ 市民割引制度の導入 など

3 チケット（令和6年1月18日から販売開始）

券種	価格		内容
	一般 〔前売：100円引〕 〔市民割：200円引〕	学生(19歳以上) 〔高校生以下無料〕	
鑑賞券	2,300円	1,200円	3会場へ入場できるチケット
セット券	3,300円	2,000円	鑑賞券と「BankART Life VII」、 「黄金町バザール 2024」のパスポートがセットになったチケット
フリーパス(※)	5,300円	3,000円	会期中、全ての会場(創造界限拠点を含む)を何回でも入場できるパスポート

※販売は3月15日から。鑑賞券またはセット券からのアップグレードも可能。

4 開幕までのスケジュール

- 令和6年1月17日（水） オンライン記者会見（開催概要発表）
- 1月18日（木） チケット販売開始
- 3月14日（木） 開幕前日記者会見、内覧会、オープニングセレモニー
- 3月15日（金） 開幕

5 横浜美術館の大規模改修工事及び閉幕後のスケジュール

横浜美術館の大規模改修工事は、本年11月30日に引渡しを受け、現在、指定管理者の事務室移転や、横浜トリエンナーレ開幕に向けた準備業務等を行っています。

横浜トリエンナーレ閉幕後は、大規模改修工事に伴い外部倉庫に保管していた所蔵作品の美術館収蔵庫への搬入や点検作業、アトリエや図書室の開室に向けた準備等を行うため、再度休館し、次のスケジュールで順次、事業を開始する予定です。

- 令和6年6月 横浜トリエンナーレ閉幕後、再度休館
- 11月 アトリエ事業開始、図書室等の開室
- 令和7年2月 次回展覧会開幕

<参考>開催概要

- (1) 会 期 令和6年3月15日(金)～令和6年6月9日(日)
[開場日数] 78日間
(4/4、5/2、6/6 を除く毎週木曜日休場)
- (2) 開場時間 10時～18時
※6月6日(木)～9日(日)は20時まで開館
- (3) 会 場 横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO^{ばんかーとかいこ}
- (4) アーティスト・ディレクター
リウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)
- (5) タイトル ^{やそう}野草：いま、ここで生きてる / Wild Grass: Our Lives

日本にゆかりの深い中国の小説家、魯迅の詩集「野草」からとっており、先行きの見えないこの時代を、野草のようにもろく無防備でありながら、同時にたくましく生きようとするひとりひとりの姿に目を向けます。世界中から集まる現代アーティストたちの作品を通して、わたしたちの生き方をふり返り、その先にきっとある希望を見出していきます。

なお、文字デザインは、市民や市内大学生など約200人による手書き文字をもとに作成されました。

- (6) 主 催 横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
- (7) 支 援 文化庁(国際的なイベントにおけるアートの国際発信事業)

